

北九州市環境モデル都市行動計画

本市は、平成20年7月に、政府から「環境モデル都市」に選定されました。これを受けて、環境モデル都市として低炭素社会を実現するため、平成21年3月に、「北九州市環境モデル都市行動計画（北九州グリーンフロンティアプラン）」を策定しました。この計画は、平成21年度から平成25年度の5年間で具体化する取組を示しています。

■低炭素社会とは・・・

地球温暖化の原因といわれる二酸化炭素の排出をできるだけ抑えながら経済発展を図り、人々が安心して暮らすことができる社会

■環境モデル都市とは・・・

平成20年1月に政府により位置づけられた取組で、世界の先例となる「低炭素社会」への転換を進め、国際社会を先導していくという政府の方針に基づき、先駆的な取組にチャレンジする都市を国が選定するもの。

【基本理念】

世代を越えて豊かさを蓄積していくストック型社会の構築

【温室効果ガス削減目標】

本市の2005年の温室効果ガスの総排出量1,560万トンを2050年には市域内で800万トン（2005年度の本市排出量の50%）を削減、アジアを中心に環境技術移転を進め、アジア地域で2,340万トン（本市排出量の150%相当）削減、合計で3,140万トン（200%相当）を削減する。

【5つの行動】

- ①環境が先進の街を創る
- ②環境が経済を拓く
- ③環境が人を育む
- ④環境が豊かな生活を支える
- ⑤環境がアジアの絆を深める

【推進体制】



低炭素都市推進協議会：環境モデル都市の優れた取組の全国展開及び世界への情報発信のため、低炭素社会・地域づくりの意欲ある市区町村と、それを支援する関係省庁、都道府県、政府関係機関で構成される組織（168団体）。会長：北九州市長（平成21年10月末時点）

環境首都100万本植樹プロジェクト

環境モデル都市の第1号の取組として、平成20年10月4日、環境首都シンボルイベントである「エコスタイルタウン」でスタートしました。本プロジェクトでは、「みんなで植えれば100万本！」を合言葉に様々な主体が市内各地に植樹を行っています。平成20年度（平成21年3月末時点）は、52,523本もの苗木が市内各地に植樹されました。また、プロジェクト推進組織として、市民、企業、NPO、行政からなる「みどりネット」（みんなでどこかでりよっかネットワーク）を創設しました。

北九州市環境首都検定の実施

本市では、市民環境力の強化を図るため、「北九州市環境首都検定」を創設しました。北九州市独自の環境分野の検定を実施することによって、環境学習の機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。

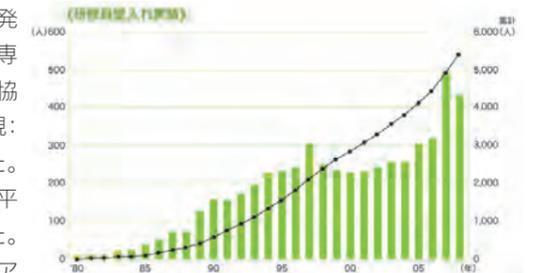
- 【実施日】平成20年11月9日（日）
- 【会場】西日本総合展示場
- 【受検者数】458人
（7歳から84歳まで（平均52歳））
- 【平均点】79.4点
- 【最高点】100点（2人）
- 【受検資格】なし
- 【受検料】無料
- 【出題形式】問題数50問（4択形式）



平成20年度 募集広告 検定実施会場の様子 成績表サンプル（受検者一人ひとりに郵送）

海外からの研修員受入5,000人達成

本市は、昭和50年代半ばから、公害克服の過程で培った技術を開発途上国の環境改善に役立てるため、開発途上国からの研修員受入れや専門家派遣を実施してきました。昭和55年には、（財）北九州国際技術協力協会（KITA）が発足し、昭和61年度から本格的に国際協力事業団（現：独立行政法人国際協力機構【JICA】）の環境研修の受託を開始しました。平成20年8月には、海外からの研修員受入は、5,000人を達成し、平成21年3月現在で、受入れ総数は、133カ国、5,366人になりました。また、JICAなどの要請を受け、市職員を技術協力の専門家としてアジアや中南米などに派遣しており、これまでに、144人を25カ国に派遣しました（平成21年3月現在）。



小型電子機器回収の実証実験

本実験事業は、本市とソニー株式会社が共同で、携帯電話やデジタルカメラ、ビデオカメラなど、使用済みの小型電子機器を回収し、その中に含まれる貴重な金属を資源として有効活用するため、平成20年9月からスタートしました。市内約60ヶ所に回収ボックスを設置し、回収された小型電子機器は、日本磁気選鉱株式会社で、分解・破砕等の処理を行い、その後、製錬工程で金・銀・銅・パラジウムなどの金属資源を抽出します。平成21年3月（7ヶ月間）までの回収量は、約15,000個（約2トン）で、その内、約6,000個を製錬した結果、金39g、銀164g、銅73g、パラジウム8gを取り出しました。



家庭系廃食用油回収の実証実験

本実験事業は、家庭系廃食用油をスーパーマーケット等に設置した回収ボックスで回収し、バイオディーゼル燃料（BDF）等にリサイクルする先進的なモデルを確立するため、平成20年9月からスタートしました。協力店舗27箇所に回収ボックスを設置し、九州・山口油脂事業協同組合が回収してBDFにリサイクルしています。

本市では、廃食用油をリサイクルして製造したBDFを燃料としたごみ収集車（17台）と市営バス（3台）が走行しています。

